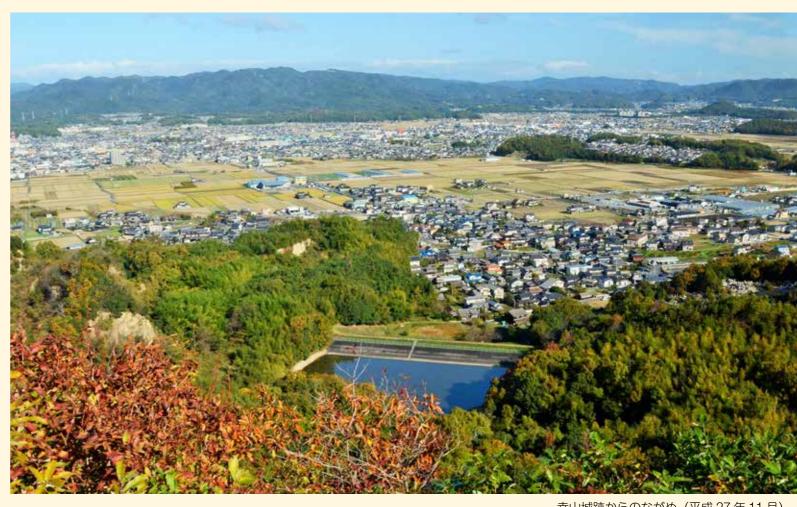
# 西郡の歴史とくらし

# 一深めよう地域の絆ー つくろう住みよい郷土

西郡地区を歩いてみませんか







幸山城跡からのながめ(平成 27 年 11 月)

西郡地区の絆を推進する会

# 目 次

刊行にあたって1
1. 西郡地区の沿革と由来2
2. 西郡地域内の史跡等の位置図3
3. 古代の郷土 4
4. 中世の福山6
5. 戦国時代と幸山城跡 8
6. 江戸時代の西郡 10
7. 西郡の神さま仏さま 12
8. 本文の補足
(1) 天満遺跡 18
(2) 幸山城主石川氏 18
(3)古代山陽道と近世山陽道 19
9. 西郡地区の歴史年表 … 20
10. 福山・幸山の恵み 22
空からの西郡
あとがき

# 「西郡の歴史とくらし」刊行にあたって

西郡地区の皆さん、お元気にお過ごしでしょうか。

私たちの住む総社市西郡地区は、南に福山の山並みを望み、その山麓に広がる文化豊かな歴史の 古い集落です。

さて、総社市は今年平成の合併から 10 年の節目を迎えました。この間、西郡地区は皆さんのご努力によって発展を続け、人口は 1100 人を超え、また世帯数も 350 戸を突破する、市内でも希な人口増勢の地域となっています。このことは総社市の発展にとって大きな希望であり、活力ある地域として期待されています。

しかし、西郡地区には新たな課題も浮き彫りになっています。それは、新しく住民になられた方には、地域を知る機会が乏しく、そのため地区への馴染みが薄いことや旧住民の中でも世代交代によって昔からの伝承や風習が途切れる等の状況が生じていることです。

そうした今、地域の歴史や文化を共通の話題として、人の絆や新旧住民の融合をはかる新しい地域づくりが必要ではないでしょうか。また、不測の事態で起きる防災上からも地域の普段の絆や対応が求められています。

この現状に際し、私たち刊行委員会(有志)では、愛する郷土の豊かさと発展を願うため「西郡の歴史・文化・くらし・風習」などを冊子に纏め、地区の皆さんにお届けすることを考えました。この冊子が地域の絆を強め、いつまでも住み続けたい郷土づくりに少しでも役立てばと願ってやみません。

平成 27 年 11 月

西郡地区の絆を推進する会 「西郡の歴史とくらし」刊行委員会 代表 劒 持 雅 久



#### 1. 西郡地区の沿革と由来

#### ≪沿革≫

私たちの住む西郡地区は、総社市の南東部にあって北には吉備路自転車道を経て三須地区、 西は持坂峠を経て旧清音村、南は福山を境にして倉敷市浅原地区と接しています。そして私た ちの集落は、この福山や幸山から北側の総社平野に向かって降るなだらかな丘陵と、その先に 広がる平野の上に営まれていて、気候は温暖にして緑豊かな田園地帯です。

古代には西郡の北側の沖積平野は、今の高梁川の一部が東に分流していて足守川と合流し瀬戸の入江に注いでいたため湿地帯が多く、私たちの先祖は福山の北山裾や微高地を選んで住み始めたようです。天満遺跡はその頃の生活を知る上での貴重な先祖の遺跡です。

また、西郡地内の古墳群や三輪山の古墳群のほか、周囲には古代吉備の繁栄を代表する作山 古墳や条理制の跡が残り、湛井十二ヶ郷用水などは古くからこの地の田園を潤してきました。

中世には、後醍醐天皇に味方した大井田氏が九州から上京しようとする足利氏と戦い、ふるさと福山の名前はこの合戦の名とともに『太平記』により後の世まで語り継がれてきました。また、戦国時代には、幸山城の石川氏が備前の宇喜田氏や安芸の毛利氏と戦い、西郡の幸山城も備中兵乱の渦中にありました。西郡村はその後、宇喜多氏の支配を経て、江戸期から明治維新まで岡山藩池田領に属して、宿村・岡谷村・地頭片山村の親村としての位置を占めていました。特にこの時代には集落の真ん中を東西に旧山陽道が走り、人々の往来とともに当時は新しい文化が、この地を東へ西へと伝播していったことでしょう。

明治 22 年、上記の四つの村は合併して新たな山手村として 100 有余年の輝かしい歴史を積み重ねてきましたが、平成 17 年に総社市と合併し総社市西郡へと変わりました。明治 37 年には中国鉄道の岡山~湛井間(現在の JR 吉備線)が開通し、大正 14 年には伯備線が倉敷から宍粟まで開通しました。吉備線や伯備線の開通やバスの運行などにより、周辺の発展は山手地域や西郡に住む私たちの生活に大きな変化を与えることになりました。

西郡地区もまた、古代から現代まで米作り中心の村でしたが、戦後 は米作りやイ草の他に、セロリーやメロン・桃などの栽培を勧め、内 容も都市近郊型の農業へと大きく様変わりをしています。



戸長役場文書

そして現在、隣接する岡山市や倉敷市で働く人たちが増え、それに伴ってベッドタウンとしての住宅や道路、生活などのインフラも整備されて安全で便利な住みよい地域として発展しています。

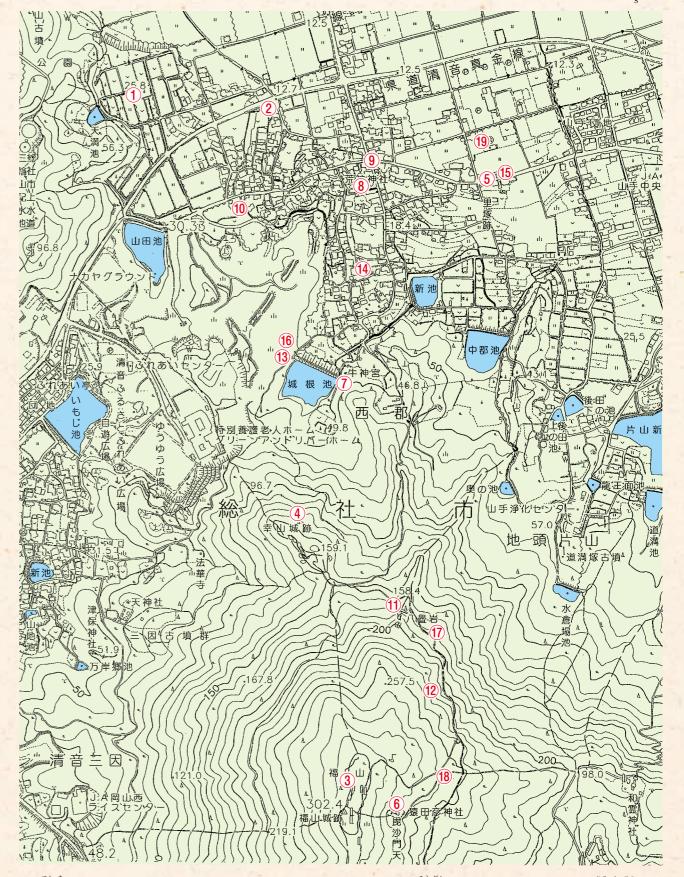
#### ≪地名の由来≫

西郡 (にしごおり) の地名の由来については、一つは、「錦織部 (ニシキオリベ)」に由来する説で古代の錦や綾などの織物を織る特別な職能をもって朝廷につかえた集団 (部) に由来する説です。

もう一つは、郡(こおり)の西に位置するという説で、古代、西郡が位置していた窪屋郡内は大市・阿智・三須・真壁・軽部の5郷から成り立っていました。郡衙の所在地については明らかでありませんが、西郡は窪屋郡全体の西方に位置する、あるいは、窪屋郡衙の西に位置している地域とする説です。いずれも事実であるという根拠は乏しく、詳しいことは分かっていません。西郡村は江戸時代の始め頃から明治 22 年まで山手地域を総称した村の名です。

# 2. 西郡地域内の史跡等の位置図





- ① 天満遺跡 ② ギリギリ山古墳 ③ 福山城跡・福山寺跡 ④ 幸山城跡 ⑤ 一里塚跡 ⑥ 猿田彦神社
- ① 牛神様・祇園様 ⑧ 郡神社 ⑨ 木野山様 ⑩ 金毘羅様 ⑪ 福山の毘沙門様 ⑫ 妙見様題自石
- ⑬ 城根のお地蔵様 ⑭ 中の堂のお地蔵様 ⑮ 一里塚のお大師様 ⑯ 上の庄屋の墓 ⑰ 福山の三十三観音
- 18 粟島様 19 公正館(西郡分館)

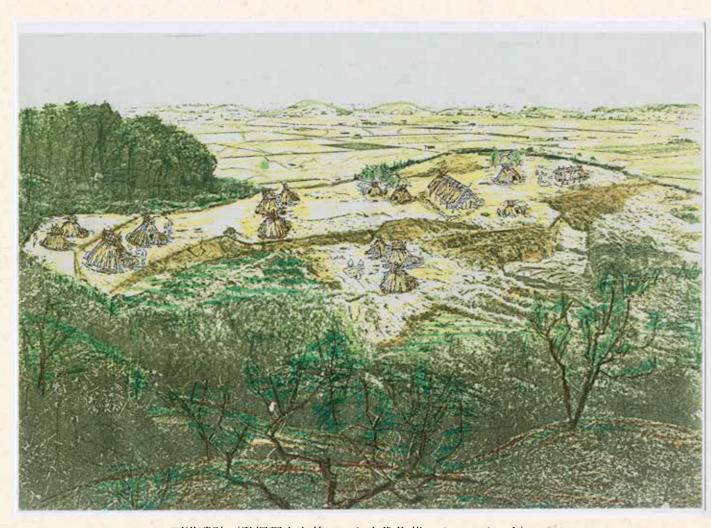
# 3. 古代の郷土

#### ① 天満遺跡 (西郡の歴史のはじまり 1800 年前の集落の跡)

天満遺跡は、昭和63年西郡の新屋敷地区で計画された村の圃場整備事業に伴う調査で発見された遺跡です。 遺跡は、総社市三輪山から北東にのびる小さい尾根の全体(頂部標高30メートル)に分布していて、生活の跡 は特にその南斜面を中心に住居跡などが数多く発見されました。

絵や写真のような円い形の住居跡が25棟以上、そして方形の住居も32棟以上が出現し、また石斧・石包丁・ 石錘・石鏃・石槍や碗・壺・甕・高杯などの石器や土器も数多く出土しました。

この調査によって山手地区、特に西郡では、おおよそ1800年前(弥生時代後期)に祖先の人たちがすで に村を形作って集団で生活を始めていたことがわかりました。(補足 P18)



天満遺跡 (発掘調査を基にした古代集落のイメージです)



弥生時代の大型住居



当時の調査の状況

#### 天満遺跡出土の遺物 (土器や石器など)



石槍 (ヤリの先)



縄文時代中期(約4000年前)の土器片



上の写真の遺物は山手公民館に展示しています

#### ② ギリギリ山古墳 (西郡下山田上)

昭和 54 年、県道清音真金線の建設 ルートにかかるため発掘調査されまし た。終了後は岡谷の角力取山古墳の西 に移築復元されています。

円墳の直径は約30メートルで埋葬施設 の横穴式石室の長さは約7メートルでした。 6世紀の中頃に造られ、7世紀の初 め頃まで追葬が行われたようです。





天井石や奥壁・側壁の二段目から上部の石は抜きとられていました 5

#### 4. 中世の福山

#### ③ 福山城跡と福山合戦

備中福山は、旧都窪郡山手村・清音村と倉敷市にまたがる、標高 302 メートルの山です。古くよりこの地に住む私たちにとっては、「ふるさとの山」として雄姿を際立たせています。山頂からは、北に吉備路風土記の丘や鬼ノ城をはじめ総社平野が一望できます。また、南には倉敷市街地や水島臨海工業地帯も遠望でき、山頂付近には古代の祭祀遺構や中世から近世にかけての山岳寺院跡や国指定史跡「福山城跡」があって、四季を通して多くの人が歴史や自然散策のために訪れています。



福山城(二の壇跡)山頂を活用して南北330メートルの間に長短の5つの壇(平場)を作り出しています



北より福山・幸山を仰ぐ



福山寺の建物跡(基壇)

# • • • • • • • • • • • •

#### 福山寺跡

山頂にあったを記します。で開山されたといます。で開山されたと伝えられています。平安中期には安養寺の僧により、朝原寺の僧によりななり、親原寺の僧によりななりの規模の寺が出家して、かなりの規模の寺が出立されていたと思われます。中世には一二坊が建立されていたと思われます。中世には、元和年中(1615年頃)には、それであり、福山寺本堂もまたとれの坊が帯江や西郡・三輪・昭和の坊が帯江や西郡・三輪・昭和の坊が帯江や西郡・三輪・昭和の坊が帯江や西郡・三輪・田港のの命で西郡の寺も廃寺となりました。



福山寺跡から出土した軒平瓦(15世紀)

#### 福山城での合戦

福山城は、この地の豪族真壁氏が鎌倉幕府から貰い受け、建武年間(1335年頃)には、真壁氏や庄氏が山上の寺院を改造し、城砦として合戦にそなえています。また、『太平記』によると、京都から一時九州へ退いた足利軍に対し、新田義貞に率いられた後醍醐天皇方の先鋒隊大井田氏経が、この備中福山城に進出し古拠して、足利方の東上に備えて陣を整えています。しかし、足利直義(尊氏の弟)ひきいる大軍との激しい戦闘(福山合戦)で、千人余りの戦死者をだして城は落ち、天皇方は三石や播磨へと敗走していきました。



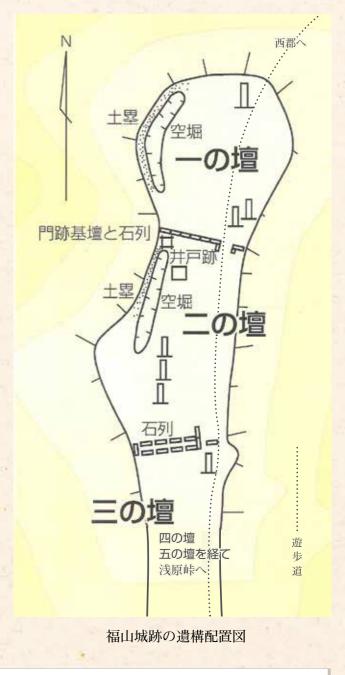
城門跡 (基礎石)



土塁の基礎石 (二の壇)



井戸跡 (二の壇)



- 城の構造及び寺跡の規模 (昭和11年 国指定史跡4077平方メートル)
- 城域は 302 メートルの山頂部を中心に東西約 80 メートル南北 330 メートル。この間に5つ平場を作り
- 出し、北から順に一から五の壇まで連なる運郭式の山城です。一の壇は、円形で広さ約 4000 平方メー
- トルの広さです。西から北にかけては、空堀が縁に沿って-70 メートルばかり弧状に外側の土塁と平行
- して並んでいます。
- 二の壇は福山の最高部で主郭、東西約 40 メートル南北 95 メートルの変長方形。東西方向に石組みを
- 主にした堤防形の土塁と門跡の石組み基壇を残しています。
- ―また、北西の角に直径 1.7-メートルの空井戸、南北方向には-35 メートル空堀と土塁が平行して走り、
- 南西辺には大きく切り落とした崖面が作られ、南辺には2列1対の列石線が20メートルにわたり残っ
- ▶ ています。四の壇には東西 20メートル南北 10メートルの寺域や礎石、また、1 辺 7メートルの正方形で
- ▶ 高さ 50 センチほどの基壇と礎石が残り、室町時代の瓦が多く採集されています。

# 5. 戦国時代と幸山城跡

#### ④ 幸山城

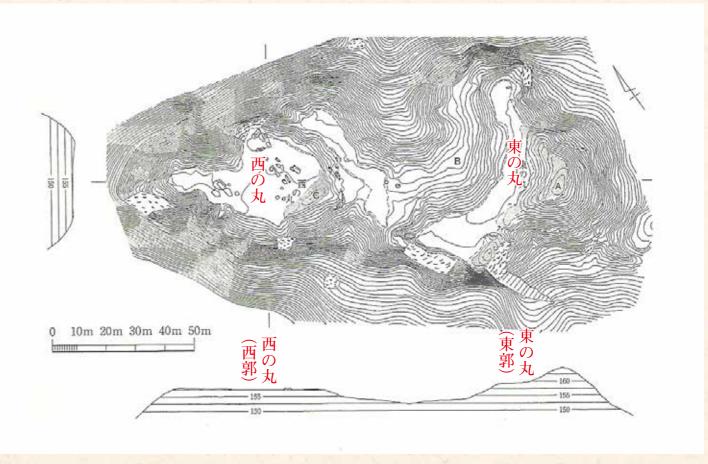
幸山城は、福山の北側にある標高 165 メートルほどの山頂に築かれた山城です。この山城は、鎌倉時代の終り頃に、庄氏の手によって築城されたといわれています。室町時代の応永年間(1394 ~ 1428)の頃には、備中守護細川氏の勢力下で、庄氏から石川氏へと城主の交代がなされ、戦国時代に入って山陽道を抑える重要な位置を占めていたこの城は、西日本全域に知れわたるようになりました。幸山城をめぐる戦い

石川氏は、吉備津神社の社務代などの要職をつとめ、応永年間以降、およそ 150 年にわたって備中南部の旗頭としての力を誇っていました。しかし、永禄 10 年(1567)、備前の宇喜田氏との明禅寺合戦で敗れ、元亀年間(1570~ 73)には、出雲の尼子氏や安芸の毛利氏との戦乱を繰り返す中で、ついには備中松山城の三村氏とともに備中兵乱によって滅んでいきました。(補足 P18)

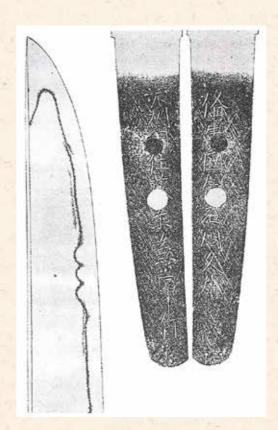


幸山城西の丸跡





幸山城跡実測図 (一城二郭)



短刀銘:備中国石川久智(個人蔵) (幸山城主「石川久智」は永禄10年三村氏とともに 備前の宇喜田氏と戦い討ち死にしている) 『所持銘のある末古刀』より

# 00000000000000

備中兵乱後、三村氏と石川氏は滅び、代わって毛利氏による領国支配が備中一円に及んだのです。そして幸山城も、毛利氏配下の清水宗治の居城となり、その在城期間は天正3年~同6年(1578)ごろと思われます。後に清水宗治は備中高松城の城主となり、天正10年(1582)備中高松の役(織田方からの水攻め)で自刃を遂げることとなります。

#### 城の構造

城の山頂部には二つの郭(くるわ)があり、東郭(東の丸)は東北から南西長さ60メートル幅10~15メートルの不整形な半月形の平坦面で、約750平方メートルの広さです。西郭(西の丸)は、北西の角が張り出した30メートル×25メートルの不整形な方形で、西辺にはほぼ直線上の土塁が残っています。また、両方の郭の間には長さ25メートル幅30メートルの堀切も残っている外、山麓には平常時の城主の居館があったと思われますがその場所はまだよくわかっていません。

8

#### 6. 江戸時代の西郡

#### ⑤ 山陽道と一里塚

山手を東西に貫く近世の山陽道は、徳川幕府により京都から下関に至る街道として、律令時代からの古代山陽道を再整備したものです。西国大名にとっての参勤交代や幕府巡見使・長崎代官・幕府代官などが使用する重要な街道でもありました。近世の山陽道のうち、岡山県内には、三石・片上・藤井・岡山・板倉・川辺・、矢掛・七日市・高屋など9箇所に宿場が設置されていました。備中での道幅は1間~2間(1.8~3.6 メートル)、各宿場には本陣・脇本陣・旅籠などの宿泊施設や宿場間をつなぐ人馬が備えられていました。

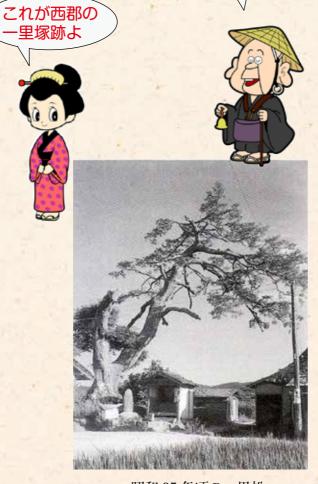
西郡には近世山陽道の一里塚跡が残っています。一里塚とは街道に沿って1里(約4キロメートル)ごとに設けられた塚のことで、道の両側に5間(約9メートル)四方の塚を築き道中の里程標としたものです。多くはその上に榎や松を植えて旅人の目印にしました。(補足 P19)







山陽道新屋敷地内 昭和 40 年頃



昭和35年頃の一里松

# 絵図「中国行程記」にみる西郡あたり

下の写真は萩藩の絵師・有馬喜惣太が描いた長大な街道絵図の一部分です。1764 年に萩藩が参勤交代に役立てるために作られたもので、西郡の一里塚は一里山、御崎神社は八幡神社 福山は古城山などと書き標されています。絵図は中央より南北二方向を見て往復用に両面で描かれています。絵図に記された文字、読めますか? 挑戦してみましょう!



#### 7. 西郡の神さま仏さま(伝統行事)

#### ⑥ 猿田彦神社(庚申様)





境内裏の祠(右: 梵天様、左: 帝釈天様)

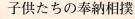
福山の猿田彦神社は、今も西郡地区の共有の順番によって、お参りやお掃除が行われています。

この神社は 17 世紀の末(天和3年 1683)に施餓鬼や念仏踊りが行われたという記録が残っています。現在の本殿は昭和57年 12月に、拝殿は明治29年に改修されています。庚申信仰は日本に平安時代の頃に中国より伝わり、備中地方では農業の神として広く信仰されています。信仰の対象は、青面金剛菩薩・帝釈天・猿田彦大神などで、猿田彦大神は道開きの神として交渉事や受験の道を開き、通行安全のご利益のある神様としてお参りされています。

# 7 牛神様と祇園様

祇園様は牛頭天王 (ごずてんのう) を祭神として、流行病や天変地異の災害から護ってもらうために古くから各地区に勧請されてきました。牛頭天王とは、祇園精舎 (お釈迦様に与えられた古代インドの寺院) の守護神のことです。







牛神様と祇園様の祠

牛神様 農村にとって牛は最も大切なもので、この牛の健康と農家の繁栄を願うのが牛神信仰です。また、 宿や西郡ではお祭りの日、子供相撲が奉納される習わしがあり、江戸時代から現在まで行われてきた記録が 花帳によって残されています。今は9月 27 日に近い日曜日に「小祭り」として、行われています。

# 8 郡神社

江戸時代中期(正徳3年 1713)に創建された古い歴史のある神社です。主祭神の荒神様は、かまどの神様としてよく知られていますが、ここでは西郡の人たちの守護神として長い間祀られています。

平成 17 年には新しい社殿が造られ、24 年 5 月には、創建 300 年祭が行われました。

同じ境内には、木野山様の分社・金毘羅様 地神様などが一緒に祀られています。



平成 17年の「創建 300年祭」



郡神社

#### ⑨ 木野山様

木野山神社は高梁市木野山の山頂にあって、大山祇尊や大国主尊を祭神とする五穀豊穣や家畜を守護する神様です。また、邪気退散や病気で悪癒の神として、特に明治の初めに県下にコレラが流行したとき、疫病退散を祈願して各地で分霊を勧進した分社がつくられました。西郡でも、小学生が 7 月の第3日曜日午前中に、この社 (やしろ)をかついで子供みこしとして「オーマケにゃ負けやあせんぞ、ハヒツにゃ負けやあせんぞ」と厄払いの声をあげて巡拝します。また、その日の宵いは郡神社のお祭りで子供たちの絵や文字の書かれた燈篭が、かざられたり、お参りした人たちにはお接待があります。



木野山様

※オーマケとは、オバケ (お化け) とも言われる。 ハヒツは疫病の事だと言われています。



木野山様のお祭りは7月20日に近い日曜日に行われています。

### ⑩ 金毘羅さんと地神様

讃岐の金毘羅さんは水神様として、農業や航海の守護神として全国で信仰されてきました。江戸時代の中頃からは生業の神として、また、病気や災難除けの神様として広く庶民の間で信仰するようになって、各地に分社が勧請されたようです。この写真のように灯篭に御礼等を入れて、街道沿いや集落や家の中に設置し金毘羅様として祀り、灯篭自体を拝む信仰の形は金毘羅灯篭以外には無いようです。





新屋敷の金毘羅さんと地神様

郡神社境内の地神様

地神様は江戸時代の中頃より、農業を営む人たちにより信仰されてきました。自然石に地神と刻んだ石碑を建て、春と秋の社日には地区ごとでお酒や新物を供えて祈ると五穀豊穣や家内安全・無病息災などが叶えられるというものです。西郡の向山には五角柱の地神碑があり、それぞれの面に天照大神など五神の名が刻まれた地神様もあります。

#### ① 福山の毘沙門様と ② お題目石



世沙門様



妙見谷の題目石

西郡から福山に上る途中の八畳岩(花崗岩の巨岩)の北面に刻まれた磨崖仏で、等身大の毘沙門様。総社の臼田愛蔵(明治初年の人)の手によるものです。巨岩に彫り込まれた毘沙門様は近くでは白差山や庚申山の山頂にあって、福徳や財宝をもたらす神様として地元の人から信仰されてきました。

妙見谷の題目石は「南無妙法連華経」を刻んだ石塔です。日蓮宗の盛んな備前地方に特に多く見られ、村の辻々や寺内などに建てられ、備中東南部にも多くみられます。古い時代のものとしては、清音の大覚寺に1342年銘の題目石(県指定文化財)が残されています。

#### ③ お地蔵様

地蔵菩薩(お地蔵様)は近世以降より子供の護り神様として信仰されるようになったようです。地蔵菩薩は特に親より先に無くなった子供たちが賽の河原で鬼たちに苦しめられているのを救うという。このことからお地蔵様のお祭りは子供が特にお参りをして、その加護を祈る習わしになっているようです。今では当番制でお祭りの準備をして、地域の人々や子供達をお菓子などでお接待しています。地蔵菩薩の縁日は7月24日ですが、西郡では8月24日です。





城根池のお地蔵様 宝暦3年(1753)の銘あり

# ⑭ 中の堂のお地蔵様

昔、中の堂の地蔵祭りの夜は、お通夜という不寝番をして五目飯をつくり会食し、次の日にはお参りに来る人を待ってお接待していたという話が残っています。形は変わりましたが、お接待は今も続けられています。



中の堂

中の堂のお地蔵様

# ⑤ 一里塚跡のお大師様

大師堂の中には大師像 1 体と 2 体の地蔵菩薩像が安置されています。お大師様信仰には、弘法大師の命日である 21 日に講の仲間で集まって念仏をとなえるお大師講や、各地にあるハ十ハカ所ミニ霊場を巡拝する形のものがあります。一般的には江戸時代以降になって盛んに行われるようになってきました。



一里塚跡の大師堂

#### 16 上の庄屋の墓 城根池西 (江戸時代)



この墓は家形墓(らん塔墓)と も呼ばれ、山手では一番古いもの です。

「備中国窪屋郡山手村」と「元和九年」(1623)の銘があります。 香川県の豊島で産出する比較的柔らかい石で造られたお墓です。

# ⑦ 八畳岩から庚申様までの山道の三十三観音 (明治)

観音様を本尊として祀る西国三十三カ寺などを巡礼し、功徳を得ようとする信心は中世に始まっています。 江戸時代中期以降は集落の近くにミニ霊場が開かれるようになり、ここの観音石仏は明治初期に西郡地区や 山手地区の人たちよって建立されたものです。



三十三観音の石仏



1. 馬山

八畳岩 (福山の中腹にある巨岩群のひとつ)

# 18 粟島様 (淡島)

福山の頂上から東へ少し下った所に古代祭祀の遺構があって、そこに粟島様を祀る小さな祠があります。粟島様は、女性の病を治す神様として信仰されています。

#### 19 盆踊り (地踊り)

地踊りは、西郡のご先祖様の霊と福山合戦の供養のために行われています。地域の皆さんによって輪が作られ、太鼓や音頭に合わせ炭坑節・ちびっこ音頭・ヤトサ・備中松山踊りや打上げ花火等が繰り広げられます。

地踊りは念仏踊りの一種で 400 年前の江戸時代から伝えられていますが、現在は義太夫の太閤記「尾崎の段」の文句で唱っています。以前は各家の位牌を風呂敷に包み、それを背負って踊っていたようです。最近では西郡地区に新居を定められた若い家族の皆様も集まって地域の一大イベントとして大変にぎやかな盆踊りになっています。(「西郡の地踊り」は岡山県文化財保護協会でビデオ化されています)





#### 20 秋祭りとこどもみこし 氏神様御崎神社の秋祭り

子供たちは西郡の子供神輿を御崎神社に担いでいって、お祓いを受け御幣をもらってから、西郡中を担いで回ります。昭和30年代までは千歳楽(せんだいろく)が地域をめぐり、各家庭では親戚を招き、祭り寿司や魚料理などの飲食が盛大に行われたそうです。



16

#### 8. 本文の補足

#### (1) 天満遺跡 (P4~5)

**〈天満遺跡〉**昭和 63 年西郡の新屋敷地区で計画された村の圃場整備事業に伴い、同年7月の県文化課による確認調査で発見された遺跡です。そして、その翌年の平成元年1月より1年間をかけて当時の村教育委員会が発掘調査をしたものです。

遺跡は、総社市三輪山から北東にのびる小尾根の全体(頂部標高30メートル)に分布していて、遺構は特にその南斜面を中心に数多く存在していました。しかし、頂部や北側では殆どの部分で戦中戦後の開発のためか、遺構の殆どは耕地化のために削平を受けていました。

《調査の概要》調査区は全体(約 13000 平方メートル)を十区画に分け順次実施しました。尾根の頂部 や特に東端部では表土層の下は花崗岩が風化した地山でしたが、調査区の南の部分約 1/3 には表土 下に遺物を含んだ暗茶色の土層が広範囲に残っており、この層内から地山面にかけて弥生時代後期から古墳時代後期にいたる遺物や地山まで掘り込まれた遺構が存在していました。

**〈調査から〉**この調査によって山手地区、特に西郡では、おおよそ 1800 年前(弥生時代後期)に祖 先の人たちがすでに村を形作って集団で生活を始めていたことが判明しました。一方で、そのあと 200 年間(古墳時代前期)の間は遺跡が希薄となり、1500 年前頃(古墳時代後期)には再び生活 の痕跡が濃くなり始めています。この頃はまだ天候などの環境の条件によって、住む地域を移動する ことも余儀なくされたのではないかということが容易に想像できます。歴史時代のように同じ地域に 住み続けるようになるにはもっと後の時代だったと思われます。

弥生時代はおおよそ紀元前 300 年~紀元後 300 年までの 600 年間を指し、前期・中期・後期に 区別され、西郡の遺跡では後期の特色が多くみられました。

これに続く古墳時代は西暦 300 年代から 600 年代の飛鳥時代頃までの時代区分の呼び方で、造られた古墳の特色から前期・中期・後期に分けられます。ギリギリ山古墳に見られるような横穴式石室を持つ古墳は、後期に造られたものです。戦前、山手地区には 200 基近く在った古墳の数も、現存するものは福山の山裾の西郡古墳群などを含めても 1/4 程度に減ってしまいました。

#### (2) 幸山城主石川氏 (P8~9)

幸山城主の石川氏 (久智) は永禄 10年 (1567)、備中勢 (松山城主三村元親) と備前勢 (宇喜多直家) が総力をあげて激突した、世にいう明禅寺合戦 (岡山市沢田) に5千の兵を率いて参戦したが、備中勢は大敗してこの時の戦傷がもとで他界しています。跡を継いだ久式の時代には、元亀年間 (1570~73)、出雲の尼子氏が南下政策の再開を始める一方で、毛利氏も東進を開始して、否応無く幸山城は戦乱の渦中に巻き込まれたのです。

その後、毛利氏と松山城主三村元親との間に断絶が生じて、備中は兵乱期に突入します。三村氏の城を次々と攻め落としてきた毛利氏は、ついに松山城を包囲します。天正3年(1575)の出来事です。この時、石川久式は元親が養父にあたる関係から備中松山城へ手勢300余騎を派兵して援護に向かいますが、松山城はついに落城して元親は切腹。再興の念に燃えた久式でしたが、毛利勢に追い詰められ、岡谷まで戻り自刃をしています。



#### (3) 古代山陽道と近世山陽道 (P10~11)

(古代山陽道(8世紀))古代の官道(駅路)は律令制時代、天皇を中心とする中央集権的な国家体制によって都と地方を結ぶ交通路として整備されました。平城京と大宰府を結ぶ古代山陽道の他、東海・東山・北陸・山陰・南海・西海と称される七道が都とそれぞれの国府につながっていました。中でも山陽道は七道のうち唯一の大路として規定されていました。これら官道は原則として30里(約16キロメートル)ごとに駅家と駅馬が置かれ、特に大路の駅には20匹の駅馬が配置され、官人らの往来に供していました。県内の古代山陽道には駅家が8駅あり、西郡の東側には津峴(ツザカ)駅家、西側には河辺(カワ/バ)駅家がありました。当時は直線に道路をつくることを原則としていたようで、路幅も6~9メートルあったことが発掘調査でわかっています。近くの国分尼寺の南側では幅6メートルの砂利敷の痕跡が東西方向に残されていて、古代山陽道も西郡の辺りを通過していたことが憶測されます。

〈近世山陽道(17世紀)〉西郡や宿の町中を通るこの街道は、西国街道や中国路とも称された記録があり、江戸を中心とする五街道(東海道・日光街道・奥州街道・中山道・甲州街道)の脇往還として、五街道を管轄する道中奉行の管理下に置かれていました。一般に道幅は二間半(約 4.5 メートル)と決められ整備され、関門海峡を渡り長崎街道へと通じることからも東海道に次ぐ重要な街道でした。この山陽道を通って京の都へ行くには、備中からは9日間を要したといわれています。

(一里塚) 1604年に江戸日本橋を起点として、東海道・中山道・北陸道に設置されたのが始まりとされ、この山陽道にも江戸初期の寛永年間にはすでに設けられていたようです。県内の一里塚は21ヶ所(備前11、備中10) あって、西郡の一里塚もその一つです。東隣は、新庄一里塚(新庄下)があり、西隣には川辺一里塚がありました。この西郡の一里塚には、昭和 35 年頃まで、「一里松」と呼ばれる幹周り4メートルもある立派な松がありました。また、その傍らには太師堂や、明治時代の相撲取り「熊嵐」の石碑が建てられています。

**〈『筑紫紀行』と『小春紀行』〉**以下の二つの紀行文は江戸時代の旅人が当時の西郡を通過する際に記された日誌です。

- ①『筑紫紀行』「・・・持坂といふ坂を三四丁登りて、四五丁下れば西郡村、山の手に人家三四十軒あり茶屋なし。半里計行けば宿町、人家四五十軒茶屋あり。また半里行けばせんぞく村・・・」この日誌は、享和2年(1802)6月5日、尾張の商人菱屋平七が、長崎からの旅の帰路に、持坂から西郡付近を歩いた時の紀行文です。見た目の事実が書き留められていて当時の姿を知る貴重なものです。
- ②『**小春紀行**』「・・・田園の中を行けば左に人家すこしありて、堂1軒あり、一里塚と見えて左に松一本あり、右は枯れたり・・田間をゆきて人家あり農家のみなり山手といふわびしき所なり、田間を過ぎて人家あり、名物志ろざけ焼酎もろはくという札かけたる家多し。・・・」

この文は、犬田南畝(蜀山人)が文化 2 年(1805)10 月に、赴任先の長崎奉行所から陸路江戸に帰任する際に西郡を通過したときに書き留めた紀行文です。これも街道沿いの様子がよく描写されていています。大田蜀山人は勘定所勤務の幕府官僚の一方で、随筆や狂歌、洒落本、漢詩文、など文筆方面でも高い名声をもつ人物です。

大田南畝肖像 『近世名家肖像』より

# 9. 西郡地域に関する歴史年表

時代	西暦	和暦	できごと
縄文			
	BC ↑		今から 4000 年前 天満遺跡出土の縄文土器片はこの頃のものです
弥生			
	0 —		
1.146			今から 1800 年前~ 1400 年前 天満遺跡の住居跡はこの頃のものです
古墳	$\mathrm{AD}\ \downarrow$		
			※造山古墳や作山古墳が造られる(5世紀前半)
飛鳥			この頃ギリギリ山古墳(古墳時代後期)が造られる(6 世紀後半)
			※聖徳太子が摂政となる (593)
	700		この頃の条里制(口分田)が遺っています
奈良	750		この頃国分寺や国分尼寺が造られました
平安	1086	応徳3	浅原安養寺の裏山に経塚(瓦経)が作られました
			※山手の地名が文献に初めて載っています(1180)
鎌倉			※源頼朝が鎌倉に幕府を開く(1185)
	1296	永仁4	福山寺で霊岳禅師が修行しています
南北朝	1336	建武3	大井田氏と足利氏が福山で合戦しています
	1371	応安 4	九州探題に赴任中の今川了俊が山陽道(西郡)を通っていきました
			紀行文『道ゆきぶり』の中にその描写があります
			※この頃『太平記』が著されています
室町	1429	永享1	福山寺や浅原寺の稚児が総社宮の遷宮に参列しています
	1450	宝徳2	幸山城主石川久経が吉備津宮社務代になっています
戦国		11.A.1	※応仁の乱が始まる(1467) まいおきて四々知さま知思なりて際になめに名誉しています。
	1555 1567	弘冶 1 永禄 10	幸山城主石川久智ら毛利軍として陶氏攻めに参戦しています 幸山城主石川久智ら明禅寺合戦で宇喜田氏に敗れました
安土桃	1575	天正3	幸山城主石川久式が毛利氏に敗れ岡谷で自刃しました ※高松城水攻め・本能寺の変(1582)
			<ul><li>※高伝城小攻め・本能寺の変(1582)</li><li>※関ヶ原の戦い(1600) 江戸幕府開く(1603)</li></ul>
江戸	1612	慶長 17	「備中国湛井川用水掛之事」の文献に西郡村の地名が載っています
41.广	1646	正保3	東申さまの社殿の建立と遷宮の記録が見えます
	1666	寛文6	藩の寺社の淘汰政策で西郡の観音院など山手地域内の全寺院が廃寺に
	1000	70,0	番の守在の満汰政策で四部の観音院など田子地域内の至守院が発守に なりました
	1686	貞享3	藩命で西郡村・西郡村地頭片山・西郡村岡谷・西郡村宿に呼称替えし ました
	1700		<i>ት</i>
	1703	元禄 13	西郡村など 12 ヵ郷関係の村々 80 村が、松山川鉄穴濁水被害を幕府へ 訴えています
	1713	正徳3	西郡村と小屋村の福山境界争いが15年ぶりに解決しました
			西郡村に郡神社が創建されました

			2.476
	1716	享保元	岡山藩命で西郡村に飢饉対策の育麦蔵が設けられるようになりました
	1753	宝暦3	西郡中堂に宝簾印塔が建てられています
	1762	宝暦 12	西郡の石材で吉備津神社の大鳥居が建立されています
	1857	安政4	西郡の牛神・祇園宮の鳥居が建立されています
	1868	慶応4	備中松山藩を征討するため西郡村に岡山藩鎮撫軍が駐屯しています
明治	1880	明治 13	※養素小学(1873)現山手小学校が創立 西郡郵便局が開設され、山手・清音・菅生の地区の集配が行われてい
			ます
	1889	22	西郡・地頭片山・岡谷・宿の4ヶ村が合併して山手村が発足しました この時の戸数は496戸で人口は2292人でした
	1890	23	山手・清音・常盤・三須の4村で組合立の充知高等小学校ができる
	1900	33	都宇郡と窪屋郡が統合して都窪郡となりました(都窪郡山手村西郡)
	1916	大正5	西郡戸主会発足
大正	1919	大正8	西郡の山陽道沿い住宅に電灯が灯る
昭和	1927	昭和 2	西郡の集落に電話が開通する
	1936	昭和 11	福山城址が国指定史跡に
	1941	昭和 16	※太平洋戦争開戦
	1944	19	西郡公会堂に陸軍工兵隊が駐屯して船山東沖に飛行場の建設を始めま した(昭和20年の終戦で中止されました)
	1953 ~ 59	28~34	この期間山手村の合併問題が長く協議 (総社か倉敷か) されてきましたが、県の勧告も受け入れることなく合併は否決されました
	1964	39	旧山陽道で村では初めての舗装工事が始まりました
	1972	47	メロンの出荷ができるようになりました
	1981	56	西郡の守安竜也さんが、ボクシング (全日本ジュニア・ウエルター級) チャンピオンになりました
	1986	61	県道バイパス(清音―真金間)が開通しました
	1987	62	西郡コミュニティハウス公正館(現西郡分館)が落成しました
	1988	63	山手村全域に下水道が完成しました
平成	1997	平成 9	福山合戦が縁で新潟県十日町市中条地区との交流が始まりました
	2005	平成 17	山手村が総社市・清音村と合併し、地区名が都窪郡山手村西郡から 総社市西郡になりました
	2012	平成 24	新谷仁美さんがロンドンオリンピックに出場しました (女子 10000mで 9 位)



充知高等小学校の校舎の一部 (移設)



昭和時代の西郡公会堂 (現在のみはらし公園)

#### 10. 福山・幸山の恵み (先人の努力)

≪福山・幸山の恵み≫ 西郡にとって掛け替えのない福山:江戸中期の正徳 3 年(1703) 西郡村と 小屋村(現市内清音三因)との間で福山の境界をめぐって争われていた訴訟事件が、近隣の大庄屋の 調停で和解しています。電気やガスの無かった時代には、家事に必要な木材をはじめ、カマドや風呂 の燃料、肥料になる下草などは、特に貴重な財産として住民や地域の暮らしを支えてきました。そし てそれを少しでも多く広く保有することがみんなの願いでした。それだけに解決までには 15 年間を 要しています。両村の境石は「境」の文字や「+」の記号で刻まれ、今も境として残っています。こ のようにして当時から私たちの先祖は福山の入会権を守ってきました (歴史年表参照)。山麓には福 山の山水でため池を造って田畑を養い、昭和30年代まで「山切り」を行い山の恵みを分け合って暮 らしてきました。福山は良質の石材を産出することから、宝暦 12年(1762)福山産(西郡の六兵衛山) の石材で吉備津神社の大鳥居が大塚利右衛門(吹屋村の吉岡銅山の経営者)によって建立されたほか、 地元の石造物にも多く使用され福山・幸山などからの石材は昭和 40 年頃まで切り出されていました。

≪高梁川の利水≫ 妹尾兼康による十二カ郷用水の存在は平安時代に遡ることができますが、川の無 い西郡村は米作りの用水を確保するため慶長 17 年(1612)には湛井用水掛に加わっています。元 禄 16 年(1703)には上流の松山川(高梁川)の砂鉄採取などの原因による濁水に対し、12ヶ郷 80 村と共に幕府に訴えるなどをして水を守ってきました(歴史年表参照)。また、高梁川から得た分 水は堰守りを置いて田を潤し、池の水は樋守が水を管理して、秋には池干しなどを行い池の保全につ とめてきました。

≪暮らしの絆≫ このように森林や水など生活に欠かせないものの共同利用については、古く江戸時 代より住民の日々の暮らしの中で、地域の「結」ともいうべき様々な助け合いや支え合いが行われて きました。地域にはお大師講組などがつくられ、村人の不幸に際しては家人に代わって葬儀の準備や 段取りを行い、応分の香料も出し合って経費等に充てるなどして互いに助け合ってきました。今では 社会状況や生活様式が様変わりして、習慣も変化してきましたが、良い習慣は今も尚残され絆ともなっ ています。





西郡村と小屋村との入会権を示す境石(江戸中期) お大師講 信仰だけでなく地域の行事や仕事など 情報交換の場となっています

#### 西郡への限りなき思い (あとがき)

「せっかく西郡に住みながら西郡のことがようわからん」こんな声に答えようと制作し たのがこの冊子です。私たち刊行委員が約1年半20回の会議を重ねてやっとできまし

この冊子はお互いが住んでいる西郡の歴史や暮らしをわかりやすく紹介したものです から、まずお読みくださればと思います。そして、地域の歴史探訪や諸行事に参加いた だければ西郡についての理解が一層深まります。お互いの心が通い合い一緒に住んでい る喜びを味わいながら、支えあい助けあって生活できるならすばらしい西郡が創れるで しょう。

西郡への思いを込めて作ったこの冊子が、そんな一助になればと願っています。

なお、この事業は総社市市民提案型事業を活用して作成したものです。刊行にあたり 総社市・総社市教育委員会また西郡自治会など多くの関係者にご協力いただきました。 心より感謝申し上げます。

平成27年11月

『西郡の歴史とくらし』刊行委員会

刊行委員 (アイウエオ順)

上山隆道 風早昱源 劒持堅志 劒持信生 劒持雅久 劒持章人 日野浦弘幸

引用文献等 『山手村史史料編』 山手村史刊行委員会 平成 15 年

> 『山手村史本編』 山手村史刊行委員会 平成 16 年 『山手村歴史年表』 山手村宿歴史の会 平成 14 年

参考文献等 『岡山県大百科事典』 山陽新聞社 昭和 55 年

※行事等の写真については断りなく掲載させていただきましたが、当パンフレット出版の 趣旨をご理解の上、ご協力よろしくお願いいたします。

印刷・製本 サンコー印刷株式会社

